

9 - 5 九州地方とその周辺の地震活動 (1996年11月～1997年4月)

Recent Seismic Activity in and around Kyushu District (November 1996-April 1997)

福岡管区気象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA

1996年11月から1997年1月および1997年2月から4月までの震央分布を第1図に示す。1996年11月から1997年4月の期間に図の領域でM4.0以上の地震は44回(このうち、日向灘で6回、鹿児島県薩摩地方で12回、奄美大島近海で14回)、M5.0以上は7回(このうち、日向灘・鹿児島県薩摩地方・奄美大島近海で各2回)発生した。また、M6.0以上は1996年12月3日M6.6(日向灘)、1997年1月18日M6.0(奄美大島近海)、3月26日M6.3(鹿児島県薩摩地方)の3回発生した。最大地震は3月26日17時31分の鹿児島県薩摩地方の地震(M6.3)で最大震度は5強であった。これらの地震で震度5強が2回(いずれも鹿児島県薩摩地方、M6.3、M5.5)、震度5弱が2回(日向灘M6.6、鹿児島県薩摩地方M4.9で各1回)発生した。

また、期間中に管内の震度観測点で有感となった地震は、11月14回、12月20回、1月23回、2月6回、3月125回、4月111回の合計299回であった。このうち、3月の98回、4月の89回は鹿児島県薩摩地方の地震によるものである。

この期間は、周防灘、愛媛県西部、鹿児島県薩摩地方、日向灘、種子島近海、奄美大島近海で活発ないし、やや活発な地震活動がみられた。

1996年11月～1996年4月の主な地震活動は次のとおりある。

(1) 周防灘の地震(最大M4.1、第2図)

山口県下関市の南東25km付近の周防灘で1996年12月6日に1回、13日に2回震源の決まる微小地震があったあと、同16日から急に地震が多くなった。地震の数は1997年1月に入るとやや減少したが、2月末までやや多い状態が続いた。最大地震は12月16日のM4.1(深さ8km)である。沿岸の北九州市・苅田町などで12月4回、1月3回、2月1回、震度1～2の有感となった。また、一部は沿岸で「ドーン」という地鳴りを伴った。気象庁の1926年以降の約70年間の資料では今回の震源付近で有感地震が発生したのは初めてのことであった。今回の震源域の北方10km付近では1991年10月28日にM6.0の地震(深さ19km)があり、福岡で震度4、下関などで震度3を観測している。

(2) 鹿児島県薩摩地方の地震(M6.3、M6.2)

3月26日17時31分にM6.3の地震があり、5月13日14時38分に3月26日の地震の南西約5kmでM6.2の地震が発生。(詳細は、別項を参照のこと)

(3) 日向灘の地震(M6.6)

1996年12月3日07時18分に宮崎市の南東25km付近を震源とするM6.6があったが、この地震

による余震活動はきわめて低調であった。(詳細は、別項を参照のこと)

(4) 種子島近海の地震 (M6.2)

1996年10月18日19時50分に種子島の東10km付近でM6.2の地震(深さ36km,最大震度は鹿屋市新栄町の4)が発生した。この地震による余震がこの期間も続いた。この地震の最大余震は11月11日のM4.7(深さ37km)である。

(5) 奄美大島近海(奄美大島の北東海域)の地震(M6.0)

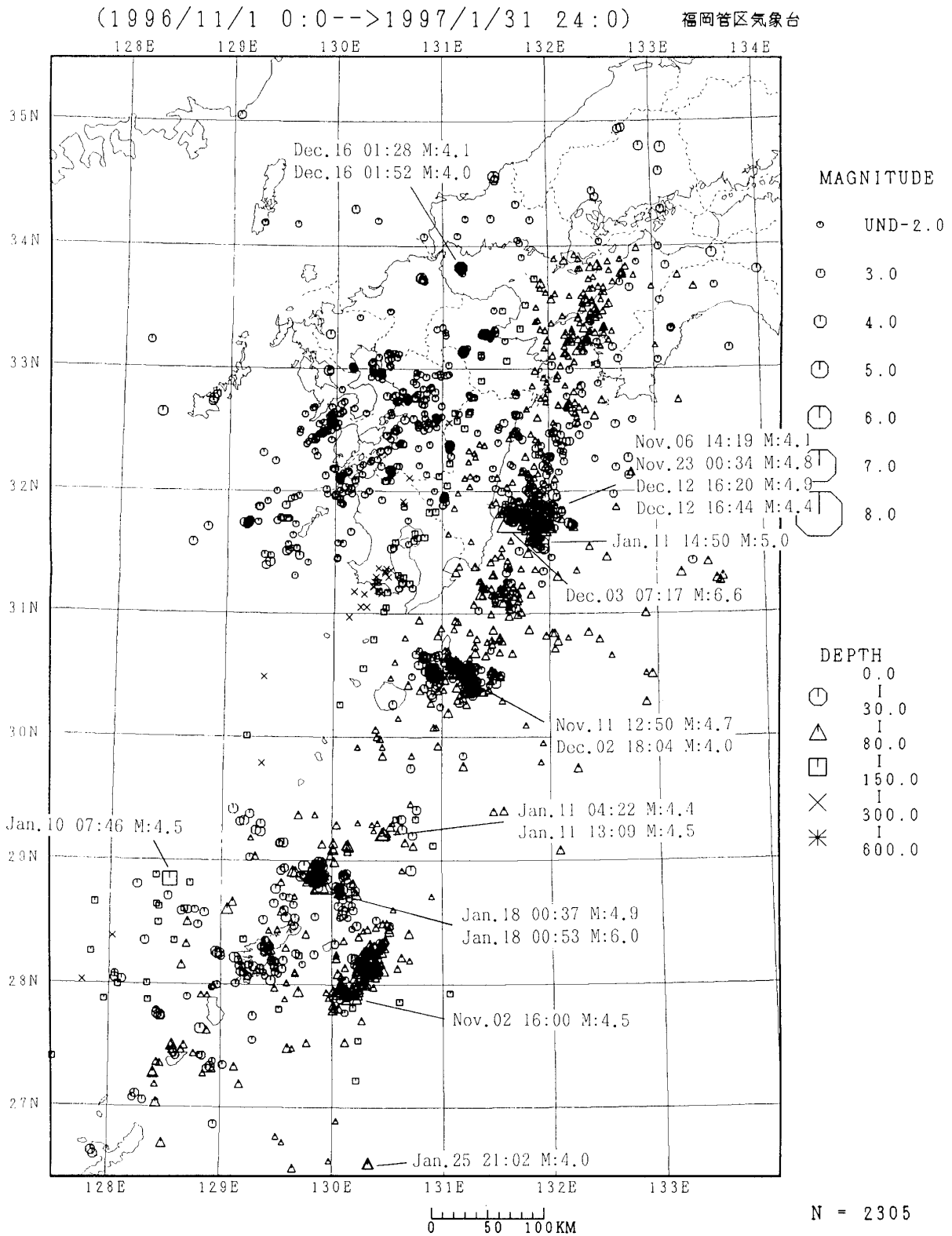
1月18日00時53分に奄美大島の北東50km付近でM6.0地震(深さ36km)があった。この地震で九州中部以南から薩南諸島で有感となり、最大震度は喜界島で震度4を観測した。発震機構解は低角逆断層で、震源の位置、深さからユラシアプレートのフィリピン海プレートのプレート間地震と考えられる。この地震では直前の18日00時37分に名瀬・喜界島で震度3となる前震(M4.9,深さ39km)があった。余震は1月21日まで多発し、その後は発生回数が減ったものの、期間中は発生が続き4月30日までに震源の決まる地震が約240回発生した。最大余震は3月8日のM4.1(深さ35km)である。なお、この震源付近で震源の決まる地震の下限の規模はM2.5程度と思われる。

(6) 奄美大島近海(奄美大島の北西海域)の地震(M5.5)

4月6日05時37分に奄美大島の北西100km付近でM5.5の地震が発生した。震度観測点から離れているため最大震度は名瀬の2であった。この地震の14分後の05時51分にもほぼ同じ場所でM5.2の地震が発生した。この付近の震源の深さの精度はあまりよいとはいえないが、M5.5は深さ0km, M5.2は深さ3kmに決まっている。この付近では今回より活動の規模は小さいが、1995年7月～9月に約20回(最大地震はM3.7), 1996年8月に約10回(最大地震はM3.2)震源の決まる地震活動があった。今回の地震では5日17時13分からM5.5の地震の直前までの約12時間に約15回のM2～3クラスの地震が発生した。5日から9日までに震源の決まった地震は約45回(M4以上は3回)発生したが、10日以降は少なくなった。なお、この付近で震源の決まる地震の下限の規模はM2.5程度である。

(7) 奄美大島近海(喜界島近海)の地震(M6.6, M6.5)

1995年10月18日19時37分に喜界島の南東50km付近を震源とする地震(M6.6, 深さ39km, 喜界島で震度5)が発生した。活発な余震活動が続いていたが、次第に発生回数は減って地震の規模も小さくなってきている。



第1図 九州地方とその周辺の震央分布図

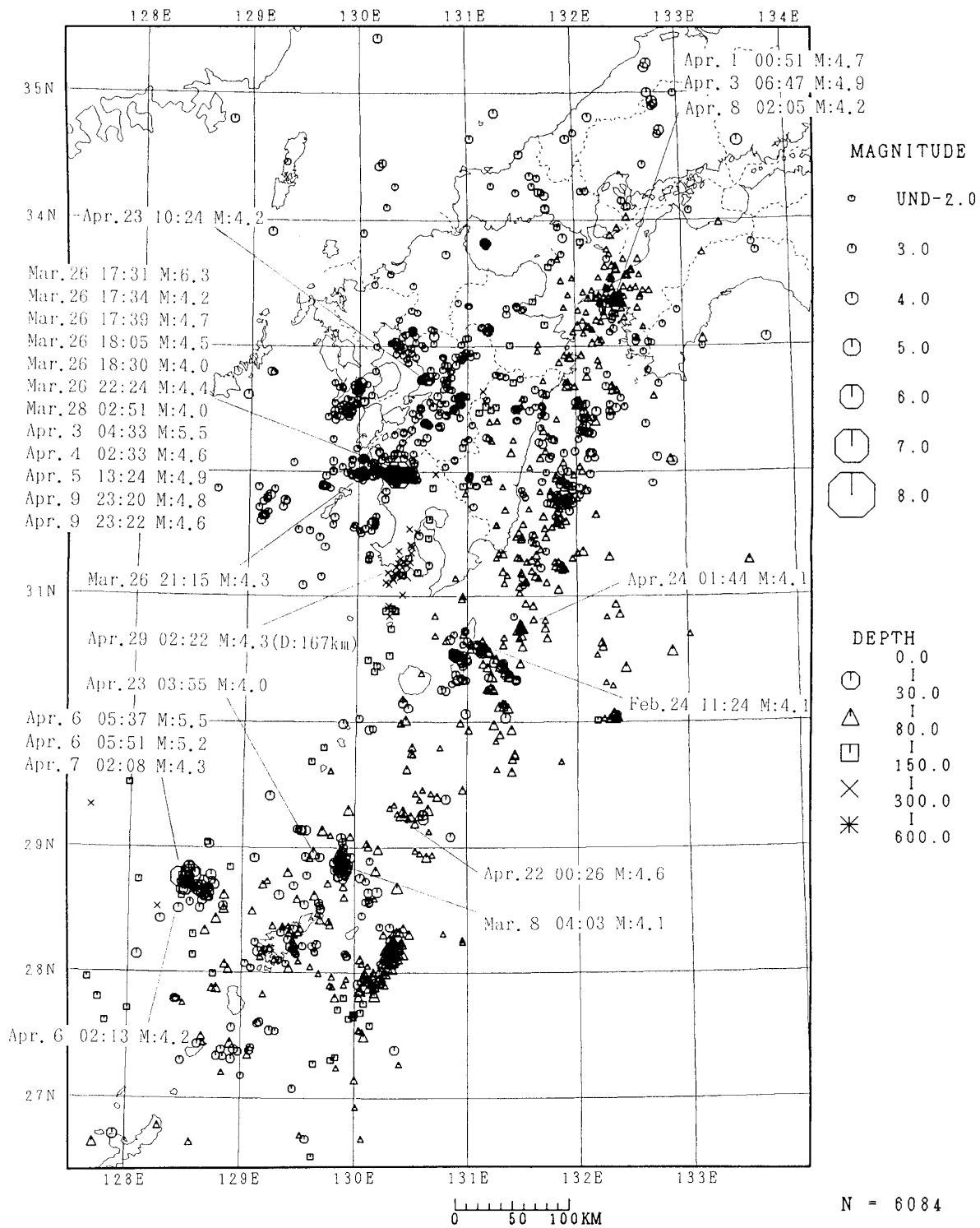
(1996年11月~1997年1月、1997年2月~1997年4月)

Fig. 1 Epicentral distribution in and around Kyushu District

(November, 1996-January, 1997, February, 1997-April, 1997).

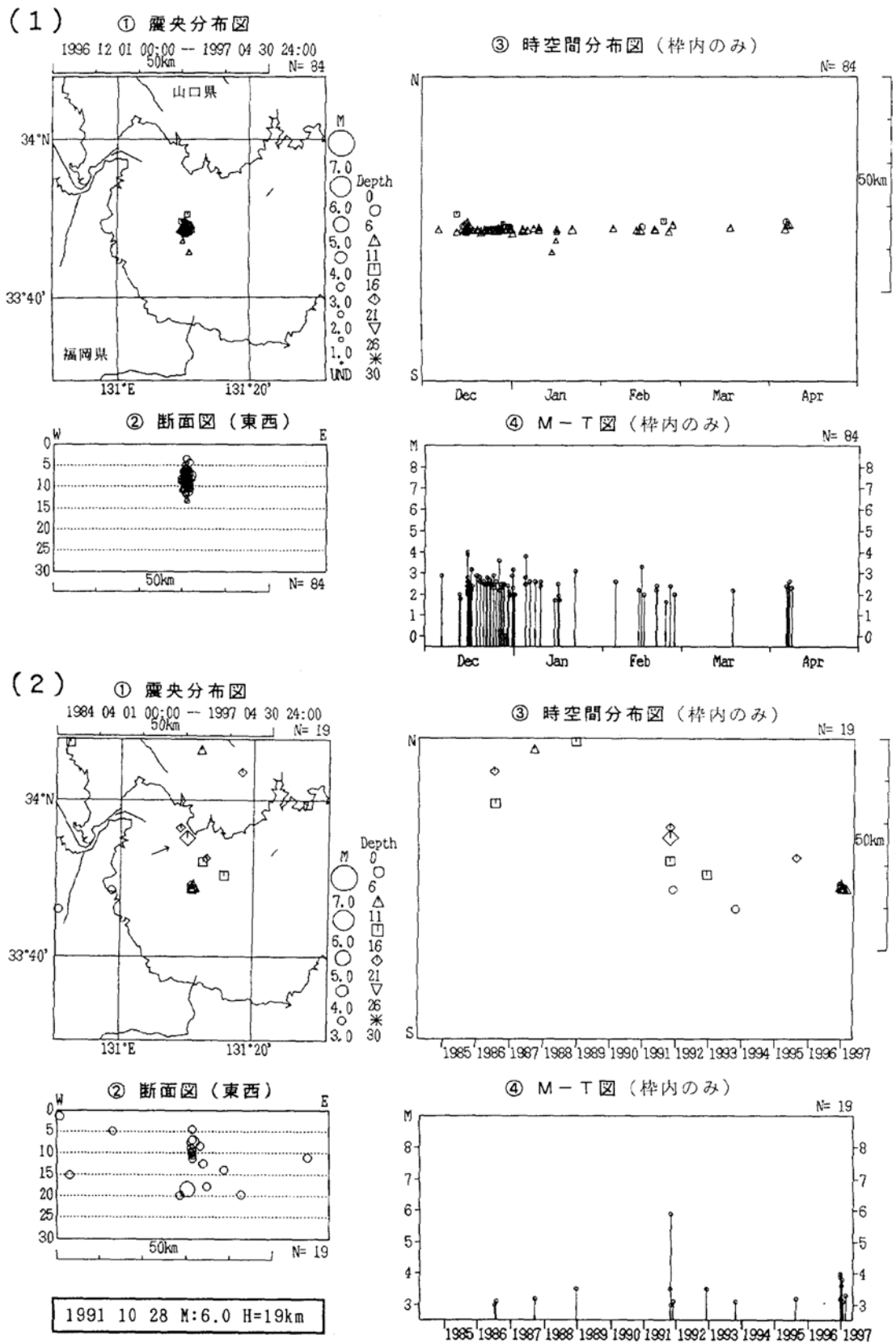
(1997/2/1 0:0-->1997/4/30 24:0)

福岡管区気象台



第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



第2図 周防灘の地震活動。(1)1996年12月1日~1997年4月30日。(2)1984年4月1日~1997年4月30日。震央分布図、東-西断面図、時空間分布図、M-T図。

Fig. 2 Seismic activity in Suonada region. (1)December, 1996-April, 1997. (2)April, 1984-April, 1997.

Epicentral distribution, vertical section along the E-W direction, space-time plots, M-T diagram .